

シェムリアップ Moi Moi ライフ

ISSUE
104

「Moi Moi」とはクメール語で「ひとつずつ、ゆっくりと」の意味。恵み豊かなカンボジアでのスローライフをお届けします。



小出 陽子 (Yoko KOIDE)

1992年早稲田大学大学院卒。一級建築士。2000年、UNESCO/JSA 遺跡修復オフィス建設のため、カンボジアに赴任。2005年シェムリアップにレストラン Cafe Moi Moiをオープンする。同年JST (NGO: アンコール人材養成支援機構) を設立し、農村地域の支援活動を始める。2013年“アンコールの都の西北”に公立のバイヨン中学校を創設し、運営を行っている。

● JST ホームページ
<http://www.jst-cambodia.net>

バイヨン高校、ついに開校！

今年11月1日。創立7年目のバイヨン中学校の新年度が始まり、同時にバイヨン高校も開校しました。念願の高校開設、バンザイ！と書きたいところですが、そう喜んでばかりもられません。教師が足りないのです。中学も高校も同じ校舎を午前と午後で使い、教師も中高関係なく教えることになるのですが、生徒数650人、13クラスに対して、教師は13人のみ。絶対的に足りません。特に数学や物理・化学など理数系の教師がいない状態です。

カンボジアの教師は、ほとんどが市内の学校への赴任を希望しているため、市内の中・高校の教員数は定員の倍ほどもいて、教えたたくも授業を持たせてもらえない状況とのこと。教育省人事にはいわゆる、袖の下を吸い込むブラックボックスがあるとも聞きます。そのとばっちりを受け、農村部の学校に赴任する教師は極端に少なくなるのです。

これはもう、母校愛に満ちたバイヨン中



今年高校を卒業したバイヨン中学校第一期生

学校卒業生に、高校卒業後、教員養成校に進学してもらい、教師になって地元に戻ってきてもううしかない。そう考えた校長は、市内の高校を卒業したバイヨン中学校第一期生38人を集めて、「将来、教師になって、バイヨン中学校で一緒に教えましょう！」と呼びかけ、うち18人は教師になりたいと意欲を見せていました。ところが、カンボジアでは、高校卒業試験の成績が良くなければ教員養成校の受験資格さえももらえないそうなのです。何人かは受験はできたようですが、全員落第。教師になるのも狭き門となっているようです。

教師がいないのなら、e-learning を利用できないか？など、現在も模索を続けていますが、日本と違ってカンボジアの学校は、卒業試験で合格点に達しなければ容赦なく落第となるので、それが頭の痛いところです。教員資格のない人が教えるのも違法で、教育省から固く禁止されているとのこと。何かよい打開策はないものでしょうか……？